

まんさく



光寿苑の庭にも春が訪れ、花見団子に舌鼓を打ちながら喜びの時間を味わっています♡

祝300号『まんさく』もくじ

☆2頁～3頁★

*「まんさく」300号到達♪
〔251号以降の注目記事〕

☆5頁★

*想…災害を捉える

☆8頁★

*「光寿苑の日々」(4コマ漫画)

☆6頁★

*地域密着型事業紹介
*寄附・寄贈・訪問等紹介 等

*「自然法爾」(お寺さんのお話)

☆4頁★

*今生より往く
*遅ればせながら「所信表明式」

☆7頁★

*元気です！家族会♪
*5年ぶりの家族会総会

*「おわりに」

251号以降の注目記事をピックアップ！



お年寄りの楽しみの一つでもある行事自体の開催が、中々難しかったコロナ禍。どうすれば開催できるのか？を念頭に置きながら取り組んできた時間がある。



2020年の春からは、毎月のようにコロナ関連の記事で埋め尽くされていましたね(汗)



面会・外出に中々踏み込めなかったコロナ禍。お年寄りとご家族が会えない悲しみを見たくない想いで踏み切った時期。

お正月やお盆にはフルカラーで出してきた過去の「まんさく」。昨今の価格高騰により、せめてもの違いを出したいと二色刷りにて発行してきました。

『まんさく』300号到達♪



千葉恭一先生による記念講演

『光寿会45周年記念事業』はホームケアクリニックえんの千葉恭一先生の講演を拝聴。心込めた看取りは、今を生きる事に繋がると実感。



苑内研修

苑内研修は密を避ける工夫と参加率を上げるため、同じ内容の研修を2日間に分けて開催し始めたのも新たな取り組み。

介護と福祉の魅力を若い世代に伝えたい…。その願いを元に実話をお笑い劇に仕立てて西和賀町内の小中高を練り歩くこと4年。福祉職員と西和賀町健康福祉課がタッグを組んで創り上げていく中で、演じる自分たちも仕事の魅力を再認識♪



『美生の朝』へようこ

若い世代に介護の魅力を



介護の現場に外国人を迎え入れ始めたのが2020年5月。モンゴルから技能実習生が2人(2023年10月まで)、ミャンマーから特定技能労働者2人(現在進行)が加勢してくれて、お年寄りも職員も助けられてきた。文化の違いを超えて、大事な時間となっている。

『今生より往く』



もてなし上手で相手を喜ばせて

斉藤 キノさん【90歳】

キノさんは、歳を重ねても女性らしさを忘れない方でした。いつも子どもや孫の事を案じて外をよく見ていたり、職員の事も気づかて下さるやさしい方でした。春は山菜、秋はキノコ、冬にはドングロク作りと、毎年、一緒に季節の行事を楽しみました。担当で本当によかったです。

〔柴田恵美〕



言葉上手で相手をにこやかに…

高橋 やすさん【92歳】

頬を赤くして、照れたような笑顔が印象的で、時々発せられるユーモラスな会話で周囲を明るくしてくれる人柄でした。そして、相手の方を良く言ってくれるのもやすさんらしいところで、やすさんとお話するのが大好きでした。やすさん想いの家族もステキでした。

〔高橋ゆきえ〕

遅ればせながら『所信表明式』 4月18日



想...

災害を捉える 宮城県から発信します⑧

『3.11〔2〕』… 白木澤 琴 氏



宮城県の僧侶・白木澤琴さんより8回目のご執筆です。今回も13年が過ぎた「3.11」当時について語って下さいました。しかと拝読させていただきます。

3.11〔2〕

地震発生直後、細雪が舞う。近所数件のご門徒宅に伺い、互いの無事を心から喜んだ。避難所が開かれ、我が家に避難していたおばあさんをお送りした。

余震の中、土足のまま再び家に入り、寺の確認。本堂の壁は落ち、重たい仏具も転がっている。サッシはどこも破損。砕け散っている食器。瓦は落下。山門は傾き、墓地も8割方倒壊していた。

大津波警報が出ている。三陸の海沿いには、母方の祖父母を始め、親戚が多く住む。無事だろうか。私たちの無事も、遠方の親戚・友人たちに伝えねば。携帯電話とプッシュ式の電話は繋がらない。ところが、昔からの黒電話が繋がったのだ！すぐに数名の方に連絡をとり、こちらの無事を伝え、有缘の方々へも拡散をお願いした。最後まで祖父母とは連絡が繋がらず、最悪の事態を覚悟したが、約一週間後、沿岸に住む親戚一月の無事を知り、安堵したことを思い出す。

出す。

震災当日、同居している祖母は大学病院へ通院中に被災。付き添いの伯母の家に数日身を寄せた。また妹は、友人とデイズニースで被災。宮城行きの高遠バスの運転手さんに頼み、ご厚意で仙台まで乗せてくださり、祖母と共に伯母の家に身を寄せ、帰宅したのだった。

夜、ラジオを流し、ダルマストーブで暖をとる。国道は静まりかえっているが、どこか遠くから牛や鶏が悲しげに不気味に鳴く声が聞こえてくる。石油が燃えるような焦げ臭い匂いも風に乗ってやってくる。外に出てみると、夕方の曇天と細雪が嘘のように晴れ、恐ろしいくらいにキレイな星が、空一面に静かに広がっていた。その晩は、家族と川の字になって休んだ。

突如、流していたラジオから、信じられない情報が耳に飛び込んできた。

△仙台市荒浜で、200から300とみられる遺体を発見。石巻は壊滅△

：ウソだろう。意味が全く分からない。とんでもない津波が、沿岸を襲ってしまったんだ。

彼にこの人数は誤報だと言われるが、荒浜地区では約190名の方が実際に亡くなりました。

早朝、境内の被害を確認していると、新聞配達のおばあさんが来られて、

「生きているんだ、良かったやあ！」とお互い声を上げて抱きあって喜んだ。

：その後、河北新報一面に広がる大津波の写真に愕然としたのだ。

『続く』

真宗大谷派 玉蓮寺

白木澤 琴

今月の登録者の方々

14 名 様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

晴れの日も多くなってきた…♪「ひなたぼっこの日常」



2024/04/26 13:52



2024/04/26 13:10



2024/04/12 13:51

右上 粘土細工 左上 外でお茶っこ 右下 お散歩タイム 左下 何回目かの共同作業♡

おかげさまでした

面 会 [4月1日～30日]

【面会】延べ53名 (対象入居者26名)

寄 贈

★ 西和賀町商工会女性部 様
☆ 高橋 美智子 様 [上野々]
☆ 高橋 ちづ子 様 [下 前]
☆ 阿 部 貞子 様 [湯 本]
☆ 高 橋 久子 様 [湯之沢]
☆ 三 上 正 様 [滝沢市]
☆ 中 田 幸子 様 [東京都]

訪 問 ★=光寿苑、☆=ひなたぼっこ

お茶会粘土細工 4月21日

☆ お茶会メンバー … 12名



2024/04/21 09:59

光寿会へのご支援



家族会副会長
佐々木忠雄氏

115回目も家族会役員・佐々木忠雄さんの投稿でございます！忠雄さんワールド、毎月の楽しみとなっています！

元気です！家族会♪

サトフル⑤ (1) 用水路 (2) 火傷

(1) 気がつくとも水の中にいた。さっきまで姉たちを追いかけていたのに。山菜を採るために姉三人が山に行くのを私は追いかけていた。でも、私はまだ小学校にも入っておらず、姉たちも最初から私を連れて行くとは考えてもいなかったのだ。そのため、後をついてくる私は、「帰れ」としか言わなかった様だ。

(2) ドカンという轟音とともに、目の前の野焼きが弾けた。一瞬、何が起きたのかも分からない私。しかし、次の瞬間、顔に激痛が走る。

この時、近くのお店の庭で物を燃やしていた。その周りに小学生や、多分中学生も何人が居たかも知れない。その中で、何かが行き成り爆発した。

店で余った物や紙くずなどを燃やしている最中、火の一番近くにいた私だけが火傷をしたようだった。小型のがスボンベが火の中に入っていて、それが爆発の原因だったようだ。

この二つの事故、親には心配を掛けた事だろう。用水路の事は「私居たっけ？」と言う姉もあり、あやふや。

「続く」

光寿苑で5年ぶりの総会開催

【4月28日(日) 14時30分～】

コロナ禍以降、大勢の人の出入りに制限をして参りましたが、ようやく再開です。家族会の新役員さんも決まりましたので、ここにご報告致します。



【会 長】

佐々木 一 様 (再)

【副 会 長】

池 田 テ ル 様 (再)

佐々木 忠雄 様 (昇)

【事務局長】

藤 原 輝 夫 様 (再)

【監 事】

高 橋 信 男 様 (再)

小 森 一 彦 様 (再)

【地域役員】

高 橋 保 友 様 (再)

中 川 伸 一 様 (再)

高 鷹 昇 様 (新)

高 橋 毅 様 (新)

佐 藤 莊 子 様 (新)

不思議な人ですな、あの人は。 何も主張しない。 作者不詳

これは誰の言葉だったのか。

父モには、この言葉を聞いた日付だけが書かれている。

語った人が誰か? というこ

ともあるのだが、その人に、

「不思議な人ですな」と言わ

れた人は誰だったのか? そこに関心の先があるのだ。

情報社会と言われる現代は、情報を先に握んだ者が勝ち、また考えを伝えることに優れている者が勝ち組になるという。その所為で、集金に出てみると、頭の上を飛ぶ交う言葉の多さに、辟易することが少なくない。考えがまとまらないうちに、次の情報や飛んでくる。口下手が流行らない社会だ。

第99回 丸田善明

自然法爾「じねんほうに」

「た」ということを聞くことかよくある。

競争社会ということを知り、そのような社会は、誰かに仕組まれた社会で、私たちが望んだ社会ではない。

「不思議な人ですな」と言われた、そんな人

と出遇ってみたい。なりたいたい。ととは到底

言えようにはないが、そんな人を探してみたい。

奈命を掛けて...



イラスト：1000

「光寿会のお年寄りを守る会」は、お年寄りたちの権利や暮らしを守るために平成13年に発足した会。民生委員や保健員の方や相談役となり、様々な話を拝聴する。気持ちよくしてあげたいところだが、Rさんは相談員の事を誉めて、よき場を創ってくれた。

おわりに

「まんざく」を手がけた最初は、1999年5月。コロナクラスターのあった一昨年の暮れの号以外は、休まず毎月発行してきた。始めるきっかけとなったのは1999年4月、家族会総会で初代会長から、「広報紙を出して欲しい!」との言葉を受けて、入社はやばやの私は、その熱意に押されて「ハイ」と安易にも引き受けたのだが、あれから25年、振り返り感慨深くなる。タコママンが欠かす描いてきた。父・受宣に言われた中学時の記憶。自主マンがばかり描いていた私に受宣さんは言った。
「寺の新開のマンが描くといひ。結果、施設のマンがとはなったが、マンが描く度、父の声を思い出す。誰かの声か、私の使命と成っている。」